

Contents

Activities	1~2
Inspection	3
Information	4

【事務局】 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-37-4 友田三和ビル3F
TEL 03-3296-0769 FAX 03-3296-0779 URL <http://www.ajec.com/>

Activities

毎年恒例の拡大編集セミナーが、今年も「出版活性化セミナー 2006 ~ベストセラーづくりの秘密~」と銘打ち、11月9日午後1時より東京・一ツ橋の日本教育会館で開催されました。当日は非会員の出版社や編集制作会社などを含め、過去最大規模となる100名以上が出席。文化通信社など業界紙の記者の方も取材に訪れました。また、講演終了後の午後6時から、講師を交えて懇親会が開かれ、名刺交換や情報交換などが活発に行われました。

日本編集制作会社協会では、年10回のカリキュラムで構成される「編集技術講座」を開講するなど、会員社の編集技術の向上に向けたさまざま

「出版活性化セミナー2006」開催



まな取り組みを行っています。また、それとは別に協会の会員社以外にも広く門戸を開放し、出版社や全国の有力編集プロダクションなどにも参加を呼びかけ、毎年秋に「拡大編集セミナー」を開催しています。

これは出版業界の第一線で活躍さ

れているベテラン編集者や取次関係者などを講師に招き、出版業界の動向や課題、あるいは編集プロダクションに対する期待などを語ってもらい、相互理解と情報交換を図りながら、編集プロダクションの進むべき指針を探ることを目的としています。

第3回目となる今年も、「ベストセラーづくりの秘密」をテーマに、平凡社取締役編集局長兼雑誌部長の下中美都氏が「良書を出し続ける難しさ」について講演。続いて日本出版販売(株)www.(トリプルウィン)推進部MD課の古幡瑞穂氏が「少しの工夫でベストセラーが生まれる」、小学館「小学一年生」編集長兼児童学習編集局プロデューサーの塩谷雅彦氏が「親と子に支持される雑誌作り」と題して講演。最後に新潮社の「新潮新書」を創刊した同編集長の三重博一氏が「半歩先をいく新潮新書のベストセラー術」について講演。いずれもベストセラーづくりのノウハウやヒントとなる話が満載で、受講者から熱心な質問が相次ぎました。

(講演内容は次ページ)

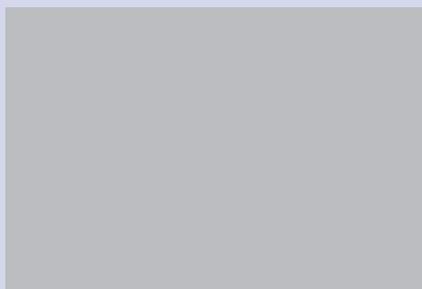
セミナー後に開催された懇親会の模様



懇親会で懇談する平凡社の下中美都取締役 (中央)

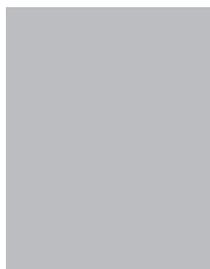


挨拶に立つ細江弘司理事長



参加者の質問に答える新潮社の三重博一編集長 (右)

●良書を出し続ける難しさ



平凡社における良書は、「一つのテーマを深める網羅性があり、作った人の情熱が読者の琴線に触れる本」だと言えます。現在の出版界は、ものすごく売れる本とそうでない本の二極化が進んでいます。ただ、そういった部数の少ない本を購入する人がいるのも確かで、しかもインターネットの普及により確実に読者に届くようになってきました。

(株)平凡社 取締役編集局長 ^{しもなか みと} 下中美都氏

読者の興味は細分化されてきていますので、読者対象は狭くてもテーマが明確であることが大切になります。今後ともこういった小さなコミュニティの読者に本を届ける仕組みは発達していくと思います。本の製作技術や印刷、広告の方法は変化していますが、著者や編集者が本に託す心は変わっていないように思えます。本には著者や編集者の思い入れが詰まっていなければなりません。そういう意味では、本は心の入れ物と言うことができるのではないのでしょうか。

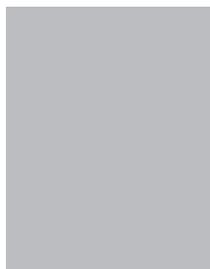
●少しの工夫でベストセラーが生まれる

従来の出版業界は、市中在庫の状況が分からないために、書店店頭在庫バランスが偏り、返品率が40%に上るといった悪循環に陥っていました。私たちが行っている「www. (トリプルウィン) project」は、書店・出版社・取次が情報を共有することにより、三者にとっていい結果をもたらす、つまりトリプルウィンの関係になることを狙ったプロジェクトです。ネットワークを通じて、本の売上動向や在庫分布が一目でわかりますので、自店の状況と比較しながら効果的な注文を行うことがで

日本出版販売(株) www. 推進部MD課 ^{ふるはた みずほ} 古幡瑞穂氏

きるようになりました。当初は、売上を公表することに抵抗を示す書店も多かったのですが、徐々に浸透が進み、データの精度も高まってきています。今後は、加盟店をさらに拡大していき、パブリシティと商品の供給が連動した「書店発のベストセラー」が多く生まれるようになっていけばと思います。

●親と子に支持される雑誌作り



「面白くてためになる」という学年誌の編集コンセプトは、創刊当時から変わっていません。インターネットや携帯電話などの影響で子供を取り巻く状況は著しく変化しています。しかし、絵を描いたり、何かを組み立てるのが好きという点では変わっていません。むしろ変わったのは大人の方で、子供との関わり方がわからないという親が増え

(株)小学館 「小学一年生」編集長 ^{しおや まさひこ} 塩谷雅彦氏

ています。まずは子供に欲しいと思わせることが第一。キャラクター、付録、表紙でいかに引きつけるかが勝負です。読者の70%は表紙を見て買うかどうかを決めています。ですから、中身の魅力をいかに表紙で表現するかが重要です。本を読むことで子供が喜んだり、成長を実感できれば、親は嬉しくなります。また、子供に対する不安や心配に的確に答えられる親向けの企画を盛り込むことも、大切です。これからも親にも子供にも支持される雑誌を目指します。

●半歩先を行く新潮新書のベストセラー術

100万部を超えるようなベストセラーは、狙って作れる物ではありません。内容や著者、タイトルの要素が大きいのはもちろんですが、タイミングや運も必要で、この本が伸びそうだったときに、その運気を捕まえることが重要です。その意味では、本を出した後が大事になります。例えば200万部を超えた藤原正彦さんの「国家の品格」の場合は、発売した直後に耐震偽装事件やライブドア事件が起きたことがきっかけとなり、売上が増加していききました。現在は「新書ブーム」と言われてい

(株)新潮社 新潮新書編集長 ^{みえ ひろかず} 三重博一氏

ますが、新書というメディアは昔からありました。最近、新書が売れ出したために、再び注目されてきたという状況で、「新書ルネサンス」とも言えます。まだ新規参入が続いていますが、これから淘汰が始まると思います。常に初心を忘れず、チャレンジャーの気持ちを持ち続けて面白い本を作っていきたいと思っています。

Tour of Inspection

AJEC

海外研修報告

去る10月4日～8日に開催された世界最大の本の見本市「第58回フランクフルト・ブックフェア 2006」(ドイツ・フランクフルト国際見本市会場)を視察する(社)出版文化国際交流会のツアーに、当協会からも細江弘司理事長、坂井一之副理事長、小檜山範男理事、そして南雲デザインの南雲美恵社長の4名が参加しました。視察団は総勢29名で、大手・中堅の出版社や販売会社などが多数参加。副団長を細江理事長と坂井副理事長が務めました。世界各国の出版の現状を知るとともに、参加した出版社の皆さんとも大いに交流を深め、同時に日本編集制作会社協会のアピールもでき、大変有意義なツアーとなりました。以下は、ツアーに参加した坂井副理事長のレポートです。

◆世界113カ国7,272社が出展

フランクフルト・ブックフェアは、もともとは1949年に西ドイツで小規模な国内フェアとして始まりました。それが50年代に入って、アメリカや欧州の出版社が参加するようになり、やがて世界の出版人が集まる国際見本市へと成長し、今日の隆盛を築くようになったのです。日本も1961年から、日本と諸外国との出版文化交流の架け橋の役割を担っている出版文化国際交流会が中心となり、参加を開始しています。

ブックフェアの会場は熱気に包まれ、参加した世界各国の出版関係者が著作権の売買や、国際共同出版の交渉などに精力的に動き回っています。会場の広さはなんと17万平方メートルもあり、東京ビッグサイトと幕張メッセを足してもまだ足りない広大なスペース。そこに、今年はドイツ国内から3,288社、外国から113

カ国3,984社(合計7,272社)が参加し、思いの工夫を凝らしたブースを展開してビジネスチャンスをうかがっていました。その光景は実に圧巻で、国際間の商談の場、情報交換の場として、今日でも世界の出版マーケットにゆるぎない地位を占めていることがよく分かります。入場者数は5日間で29万人を超え、東京国際ブックフェアの実に6倍近くに達しました。

当ブックフェアでは毎年1カ国を選出し、フォーカスを当てていますが、今年のテーマ国は成長著しいインド。去年は韓国でした。今、出版界でも成長著しいアジアやラテンアメリカ、中東などにマーケットとしての注目が集まっています。

◆版元さんとの交流も深めて

数年前から出展ブースの最低ユニットの大きさが縮小され、途上国など出展費用の問題を抱えていた国々も参加しやすくなりました。このためますます国際色が強まっていますが、それに比べて日本からの出展が寂しいと感じました。購買力のある国内だけを相手にしていても十分商売が成り立つためなのでしょうが、自らのコンテンツを世界へ売っていこうという気概に欠けるようで残念です。日本語という言葉の障壁もあるかもしれませんが、出版界では日本は未だに“井の中の蛙”です。その中で唯一、2000年からできたコミックセンターでは、日本のアニメ・コミックに、コスプレ姿のご当地の若者を集めて大盛況でした。

当協会から参加した皆さんも、それぞれ編集者やデザイナーとしての

フランクフルト・ブックフェアを訪れて



大勢の来場者で熱気に包まれたブックフェアの会場



フランクフルト・ブックフェアの研修ツアーに参加した皆さんと会食する日編協のメンバー(上) オプションのイタリア視察旅行でローマの名所「スペイン広場」を訪れたメンバー(左)

目から、いろいろと刺激を受けたようです。大急ぎの会場めぐりでしたが、収穫は大でした。

会場外ではゲーテンベルク印刷博物館を見学。その後イタリアへ飛び、ベネチア、フィレンツェ、シエナ、ローマを巡りました。観光の合間に書店も視察しましたが、長いツアーですっかり仲良くなった出版界の面々と、よく歩き、よく食べ、よく飲み、そしてよく語り、親交を深められたことは、参加した私たちにとって大きな財産となりました。

今回は10日間という長丁場のツアーのため、仕事の関係で参加が叶わなかった方もいらっしゃいました。次回は1週間程度のツアーを協会として独自に組み、一人でも多くの方が参加できるように企画したいと思います。また改めてご案内致しますので、その節はぜひご参加のほど、お願い申し上げます。

(レポート・坂井一之)

編集技術講座

10
20 11
17

今年4月に開講した年10回の「編集技術講座」が、毎回80名近い受講者を集めて好評です。10月20日に開催された第6回講座は、スタジオ・ボイスの品川亮編集長が「アートディレクションの仕方」について講義。11月17日に行われた第7回講座では、サンマーク出版第一編集部の高橋朋宏編集長が「エネルギーのある本作り」について語りました。

今後も第3金曜日（12月を除く）の午



講師の品川亮氏（左、第6回）と高橋朋宏氏（第7回）

後6時30分から、東京・一ツ橋の日本教育会館で開催を予定しています。

なお、スポット受講（1講義3,000円）も受け付けていますので、受講を希望される方は事務局までご連絡ください。

編集技術講座の今後の予定

- ◆第8回講座 1月19日（金）
「編集者として知っておきたいDTPの基礎と最新動向」（講師：澤野美智子氏＝大日本印刷市谷事業部ソリューション推進部）
- ◆第9回講座 2月16日（金）
「最新の印刷技術と紙・製本の知識」（凸版印刷／講師未定）
- ◆第10回講座 3月16日（金）
「著作権・差別用語の知識」（講師未定）
*最終講座終了後、すべての講座を受講した方に修了書を交付し、懇親会を開催します。

秋季ゴルフコンペ

10
21

毎年恒例となっている「AJECゴルフコンペ秋季大会」が、10月21日（土）に埼玉県日高市のJゴルフ鶴ヶ島で開催されました。37回目となる今大会には、非会員社を含め14名が参加し、(株)説話社の酒井文人氏がネット68（グロス81、HC13）で優勝しました。準優勝は野村真吾氏（ホフマンジャパン(株)）で、ネットはトップの67（グロス93、HC26）でしたが、初参加のため2位となりました。3位はネット70（グロス91、HC21）の千石早人氏（実業之日本社）でした。

なお、次回の春季大会は、優勝した酒井氏と、ブービーだった曾根進氏（P&I）が幹事となり、4月のウィークデーに開催する予定です。詳細は追ってご連絡いたしますので、奮ってご参加ください。

秋の例会

11
22

経営委員会が企画・運営する「秋の例会」が、11月22日（水）午後6時から東京・市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷で行われ、用意した座席が一杯となる盛況ぶりでした。今回のテーマは「こうすれば優秀な人材が獲得できる」。社会保険労務士で人事コンサルタントの中村俊之氏を講師に迎え、「どうすればよい人材が確保でき、また定着させることができるのか」といった話から、効果的な採用試

験、面接の仕方など、採用に関わる基本的な事柄について学びました。



忘年会

12
12

2006年最後の協会行事となる忘年会在、12月12日（火）午後6時30分から東京・一ツ橋の日本教育会館9階にあるVIPルーム「リンケージ・サロン」で開催されました。当日は正会員、準会員、賛助会員のほか、例会などでたびたび講師を務めていただいている中村俊之氏や、第1回編集技術講座で講師を務めていただいた鷲尾賢也氏なども参加し、終始和やかな雰囲気に包まれました。

「EDITOR'S DIARY」発行

協会が毎年制作している「EDITOR'S DIARY」（定価1,300円）の2007年版が、このほど発行されました。手帳としての機能に加え、会員会社概要、編集制作料金基準表、編集制作業務の契約などの情報が掲載されており、編集制作に携わる人びとにとって必携の手帳となっています。ご購入を希望される場合は、事務局までご連絡ください。（03-3296-0769）



入会キャンペーン実施中

日本編集制作会社協会では、会員のさらなる拡大を目指し、現在、入会キャンペーンを実施しています。通常3万円（正会員）の入会金が無料となるほか、推薦人も不要で、理事会の承認を得れば入会することができます。

1983年の設立以来、日編協は日本で唯一の編集プロダクション業界の団体として、編集制作のスキルアップと業界の地位向上を目指し、部会、例会、編集セミナーなど、さまざまな活動を展開。また、毎年「経営白書」を発行し、編集制作業における経営実態を開示してきまし

た。さらに今年からは、編集制作の知識や技術の習得を目的とした「編集技術講座」を開講し、顕彰制度として「日本編集制作大賞」を新設。ほかにも事務局に問い合わせのあった仕事を正会員に公開するなど、公平・透明性に努め、2008年の社団法人化を目指しています。

このように協会加盟のメリットは年々高まっており、まだ入会されていない編集プロの皆様には、ぜひこの機会に入会されることをお奨めします。なお、入会に際しては、入会申込書ならびに会社報告書を協会ホームページからプリントアウトし、事務局にFAX（03-3296-0779）でお送り下さい。（事務局長：高雄宏政）